

日蓮大聖人御書全集

にちごんあまごぜんごへんじ

日徹尼御前御返事

新版
2135

にちごんあまごぜんごへんじ

日嚴尼御前御返事

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

にちごんあま

弘安 3 年 ('80)

11 月 29 日

59 歳

日嚴尼

こうあんさんねんじゅういちがつようか

あまにちごん

た

もう

りゆうがん

がんしよ

弘安三年十一月八日、尼日嚴の立て申す立願の願書、

おんふせ

ぜにいつかんもん

太 布

帷 ひと

ほけきよう

ならびに御布施の錢一貫文、またたふかたびら一つ、法華經

ごほうぜん

にちがつてん

もう

あ

そうら

お

の御宝前ならびに日月天に申し上げ候い畢わんぬ。

うえ

わたくし

はか

もう

およ

そうろう

かな

かな

その上は、私に計り申すに及ばず候。叶い叶わぬは

ごしんじん

そうろう

まった

にちれん

失

みず 澄

御信心により候べし。全く日蓮がとがにあらず。水すめ

つき 映

かぜ 吹

き 揺

みこころ

みず

ば月うつる、風ふけば木ゆるぐごとく、みな御心は水の

しん

弱

濁

しんじん

潔

ごとし、信のよわきはにごるがごとし、信心のいさぎよき

澄

はすめるがごとし。

き

どうり

木は道理のごとし、

かぜ

揺

風のゆるがすは

きようもん

読

経文をよむがごとしとおぼしめせ。

きようきようきんげん

恐々謹言。

じゅういちがつにじゅうくにち

十一月二十九日

にちれん

かおう

日蓮

花押

にちごんあまごぜんごへんじ

日嚴尼御前御返事